

キクをアザミウマから守ろう！

近年、沖永良部地域の花き生産において、アザミウマによる品質低下や減収の被害が多数報告されています。今回は特に、キク栽培の防除方法・対策等を紹介いたします。

1 アザミウマの特徴

- ・体の細長い小さな昆虫で、スリップスとも呼ばれます。
- ・新芽、新葉、花などを吸汁し、ウイルス病を媒介することもあります。
- ・新芽を吸汁されると生長点がつぶれ、分枝します。
- ・新葉を吸汁されると、萎縮葉や奇形葉になります。
- ・古い葉を吸汁されるとかすり状になったり、褐色に変色します。



ほ場の見回りによる、早期発見が重要です！

2 農薬による化学的防除と耕種的防除を組み合わせよう！

○定植時に粒剤を株元散布することで生育初期からアザミウマの定着を抑えよう！

発生を予防する方法の一つに粒剤の土壌混和があります。

粒剤を定植時に株元散布することによるアザミウマの定着抑制効果が確認されています。

○農薬による防除対象は基本、幼虫です！

成虫は移動範囲が広く、防除が困難です。

卵、幼虫、成虫の様々な生育ステージで混在している状況では複数回の散布が必要になります。

RACコードの異なる薬剤を組み合わせたローテーション散布に、脱皮阻害効果のあるIGR剤などを組み込むことで、幅広い生育ステージに有効な防除効果が期待されます。



アザミウマの各生育ステージ経過日数(20~25℃)

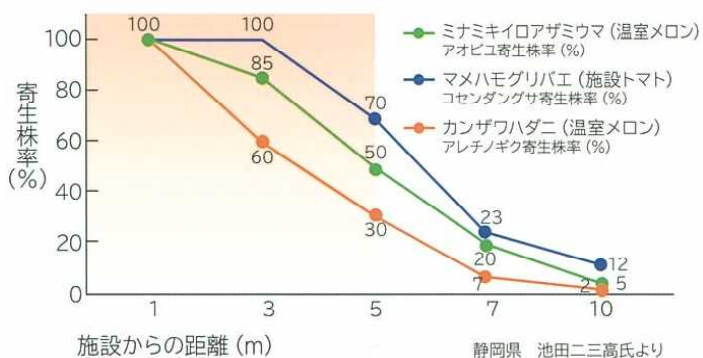
○雑草がハウス近くにあったら要注意、アザミウマを寄せ付ける雑草かもしれません！

雑草の種類によっては、害虫の住処になり、発生源となる場合があります。

ハウス周辺との5m程度除草した結果、ハウス内に侵入する害虫が減少し、アザミウマを含む複数の害虫の発生量が低下したという報告もあり、除草は発生予防につながります。定期的にハウス周辺の除草を行いましょう。



アザミウマ等害虫の発生源になる植物
(左：セイタカアワダチソウ, 右：オオアレチノギク)



(引用：シンジェンタ)

散布の工夫、発生要因の除去、粒剤の活用により効率的な防除に努めましょう！